P2-7

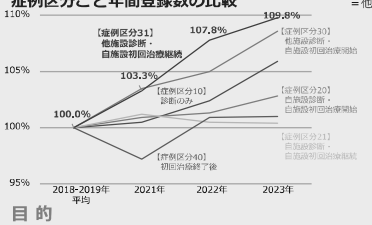
大阪府内がん診療連携拠点病院等の院内がん登録情報を用いた複数医療機関で連携して施行する初回治療の現状

大阪国際がんセンター　がん対策センター
石田 理恵、栗原 佳宏、森島 敏隆、原 加奈子、稲岡 史絵、花原 聡
川野 夏海、島津 美寿季、井川 俊樹、中田 佳世、宮代 勲

Cancer Control Center
Osaka International Cancer Institute

背 景 ｜症例区分31が増加傾向

「院内がん登録全国集計報告書」より2018-2019年平均と2021年-2023年との症例区分ごと年間登録数の比較



目 的

大阪府における症例区分31について、
全国と同様に増加傾向にあるのか、大阪府の現状を調べる。

症例区分31について、施設間で連携して施行される初回治療は何か、
また、どのようながん種が連携して治療が行われることが多いか
明らかにする。

｜症例区分31とは？

他施設で診断後、初回治療が開始され、
その後、自施設で初回治療の一部を
継続して実施した症例
＝他施設診断・自施設初回治療継続

方 法

使用データ

大阪府内がん診療連携拠点病院等68施設の
2018-2023年診断院内がん登録データ(CanReCO*)

*大阪府がん診療連携協議会で実施する
「がん登録を基盤とするリアルワールドのがん医療への影響調査」

初回治療の定義

- 手術（外科的治療および鏡視下治療）
- 内視鏡的治療
- 放射線療法
- 薬物（化学療法および内分泌療法）
- その他の治療

集計方法

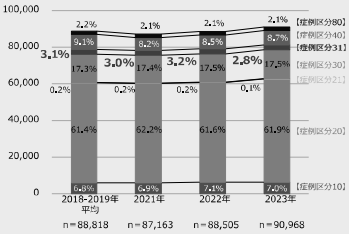
2018-2019年平均および2021年-2023年各年の症例区分
ごとの割合を算出し、推移を見た。

2018年-2023年の全体および症例区分ごとの原発部位の
内訳を集計し、症例区分31の特徴を見た。

症例区分31について、他施設と自施設の各々における
治療の実施状況を初回治療の定義に基づき集計した。
さらに他施設治療と自施設治療の組み合わせを集計し、
各組み合わせにおける原発部位の内訳を見た。

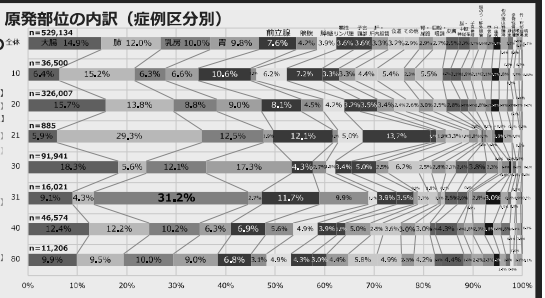
結 果 ｜大阪府内の症例区分31の状況

2018-2019年平均および2021年-2023年の症例区分ごと年間登録数の推移



症例区分31は2.8～3.2%で推移し増加は明らかではない

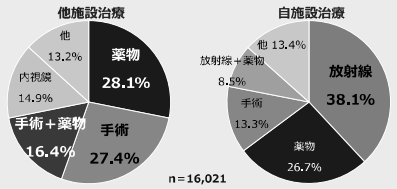
原発部位の内訳（症例区分別）



症例区分31は乳がん症例の割合が高く31.2%を占める

症例区分31：他施設診断・自施設初回治療継続

初回治療の実施状況



他施設治療は薬物および手術が多い　自施設治療は放射線治療が多い

他施設治療と自施設治療の組み合わせ

他施設治療	自施設治療	件数	割合
① 手術	放射線	**2,354**	**14.7%**
② 薬物	薬物	**1,881**	**11.7%**
③ 手術＋薬物	放射線	**1,876**	**11.7%**
薬物	放射線	1,177	7.3%
手術	薬物	901	5.6%
内視鏡	手術	796	5.0%
内視鏡	内視鏡	678	4.2%
手術＋薬物	薬物	642	4.0%
上記以外の組み合わせ		5,716	35.7%
	計	16,021	100.0%

他施設治療と自施設治療の組み合わせの上位3種のがん原発部位の内訳

結果のまとめ【症例区分31について】

- 大阪府の院内がん登録データでは約3%で推移しており、増加は明らかではなかった。
- 他の症例区分と比べ、乳がんの症例が多くを占めた。
- 他施設では手術および薬物、自施設では放射線の施行が多かった。
- 他施設で手術（①）、手術＋薬物（③）後に、自施設で放射線を施行する乳がんが多かった。
- 薬物療法の施行であっても複数のがん診療連携拠点病院等で連携されており、前立腺がんおよび造血器腫瘍が多かった（②）。

考 察

- 大阪府にはがん診療連携拠点病院等が多く設置されおり、すでに医療機関の連携が深められているため、他施設診断・自施設初回治療継続症例は増加していないのかもしれない。
- 乳がんは集学的治療が行われるため、医療機関での治療の連携の機会も多くなる可能性がある。
- 放射線治療機器を有しない医療機関もあることから、がん診療連携拠点病院等への放射線治療施行依頼が多いと考える。
- 前立腺がんにおける内分泌療法は長期間を要することから、患者居住地の近隣医療機関への紹介が多く、造血器腫瘍では移植治療のための紹介が多いのではないかと考える。

結 語

大阪府における他施設診断・自施設初回治療継続症例（症例区分31）は、各医療機関の機能や患者の状況に応じて、医療機関間で連携して治療が行われている現状が示唆された。

日本がん登録協議会 第34回学術集会 COI開示
筆頭演者名：石田 理恵　　当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。